

第2期総合戦略の評価について



第2期浜松市 “やらまいか” 総合戦略

基本目標Ⅰ

若者がチャレンジできるまち

数
値
目
標

- ① 満足のいく雇用機会に恵まれていると思う人の割合
(市民アンケート調査)
- ② 市内総生産額

〔施策〕

- ◆ 「ものづくりのまち」の次代を担う成長産業へのチャレンジ支援
- ◆ “やらまいか精神”が根付く地場産業の支援
- ◆ 地域が観光で稼ぐ力を強化することによる観光関連産業の主要産業化
- ◆ 農林水産業のスマート化、多角化などの推進
- ◆ 天竜材のブランド力強化及び流通拡大
- ◆ 海外の活力を取り込むビジネス展開支援
- ◆ 新たなリーディング産業となる企業の誘致推進
- ◆ 農林水産物の海外販路開拓
- ◆ ベンチャー支援
- ◆ 創業希望者への相談・情報提供の推進
- ◆ 新規就業者などへの支援
- ◆ 農地の流動化による有効利用の推進
- ◆ 多様な担い手の育成
- ◆ 浜松版スマートシティの実現
- ◆ 地域特性を活かしたエネルギー自給率の向上
- ◆ U IJターン・地元就職支援
- ◆ 女性の就労支援
- ◆ 外国人の就労支援
- ◆ 70歳現役都市・浜松の推進（高齢者の就労環境整備）
- ◆ 就職を希望する人への就労支援
- ◆ 働き方改革等の推進

基本目標Ⅱ

子育て世代を全力で応援するまち

数
値
目
標

- ① 合計特殊出生率
- ② 子どもを生き育てやすい環境が整っていると思う人の割合（市民アンケート調査）

〔施策〕

- ◆ 結婚・妊娠に対する前向きな機運の醸成
- ◆ 不妊に対する包括的な支援
- ◆ 母子の健康の保持・増進
- ◆ 保育施設・放課後児童会の拡充
- ◆ 地域の子育て力の向上
- ◆ 子育てに対する不安や負担の軽減
- ◆ 子どもの才能を伸ばす特別課外講座の充実
- ◆ 子どもの興味を引き出す機会の充実
- ◆ 学校・家庭・地域の連携による学校づくり
- ◆ 郷土愛をはぐくむ教育の実践
- ◆ 子ども一人ひとりに応じた支援体制の整備

基本目標Ⅲ

持続可能で創造性あふれるまち

数
値
目
標

- ① 住んでいる地域が住みやすいと思う人の割合
(市民アンケート調査)
- ② 健康寿命

〔施策〕

- ◆ 地域防災の推進
- ◆ 多様な文化や創造的な活動に触れる機会の創出
- ◆ ブランドの確立
- ◆ 国内外からの交流人口の拡大
- ◆ ふるさと納税の受入強化
- ◆ まちなかのにぎわい創出
- ◆ 中山間地域のにぎわい創出
- ◆ 市民協働のまちづくりの推進
- ◆ 多様性を生かした市民主体の地域社会の形成
- ◆ 医療・介護・予防・住まい・生活支援など切れ目ないサービス提供
- ◆ 70歳現役都市・浜松の推進（高齢者の社会参加支援）
- ◆ 市民一人ひとりの予防や健康づくりの推進
- ◆ 集約型の都市づくり
- ◆ 拠点を結ぶ交通ネットワークの形成
- ◆ 持続可能な市民サービス提供体制の構築
- ◆ 広域連携の推進
- ◆ SDGs達成に向けたステークホルダーの活動推進
- ◆ デジタルファーストによる都市づくり
- ◆ 温室効果ガス排出削減



【数値目標・実績】

| 数値目標 | 基準値 (時点) | 2020/R2 実績 | 2021/R3 実績 | 2022/R4 実績 | 2023/R5 実績 | 2024/R6 目標値 | 2024/R6 実績 | 達成率 (2024比) |
|---|------------------------------|----------------|----------------|---------------|---------------|-------------------|---------------|----------------|
| ①満足のいく雇用機会に恵まれていると思う人の割合 (市民アンケート調査) | 24.6% (2019/R1) | 19.0% | 17.2% | 18.1% | 21.2% | 30.0% | 31.6% | 105.3% |
| ②市内総生産額 | 3兆0222億円 (2016/H28) ※1 | 3兆1534億円 ※2 | 3兆2585億円 ※2 | R7年 確定 | R8年 確定 | 3.3兆円 以上 ※3 | R9年 確定 | — |

※1 「平成28年度浜松市の市民経済」に基づく数値

※2 「令和3年度浜松市の市民経済」に基づく数値

※3 「平成23年度しずおかけんの地域経済計算」に基づく数値

【数値目標の達成状況】

- ①「満足のいく雇用機会に恵まれていると思う人の割合」は、2024年の目標値30.0%に対して31.6%の結果となり、目標は達成された。
- ②「市内総生産額」は、現時点での最新値は2021年の3兆2585億円となり、2024年の目標値3.3兆円以上と比較すると、目標には届いていない。ただ、基準値となる2016年は3兆222億円、2020年は3兆1534億円となり、年々着実に向上してきている。

基本目標I 若者がチャレンジできるまち (施策の評価)



【基本目標 I の指標達成状況（2024年度）】 ★評価基準： 指標達成率100%…A、60%以上100%未満…B、60%未満…C

| | | |
|------|---|----------|
| 評価結果 | B | 指標達成率の平均 |
| | | 86% |

| | | | | |
|---|---|---|---|----|
| A | B | C | — | 合計 |
| 7 | 9 | 2 | 3 | 21 |

| 施策 | 平均指標達成率 | 評価 |
|---------------------------------|---------|----|
| 「ものづくりのまち」の次代を担う成長産業へのチャレンジ支援 | 97% | B |
| “やらまいか精神”が根付く地場産業の支援 | - | - |
| 地域が観光で稼ぐ力を強化することによる観光関連産業の主要産業化 | 100% | A |
| 農林水産業のスマート化、多角化などの推進 | 85% | B |
| 天竜材のブランド力強化及び流通拡大 | 91% | B |
| 海外の活力を取り込むビジネス展開支援 | - | - |
| 新たなリーディング産業となる企業の誘致推進 | 100% | A |
| 農林水産物の海外販路開拓 | 16% | C |
| ベンチャー支援 | 41% | C |
| 創業希望者への相談・情報提供の推進 | 100% | A |
| 新規就業者などへの支援 | 100% | A |

| 施策 | 平均指標達成率 | 評価 |
|---------------------------|---------|----|
| 農地の流動化による有効利用の推進 | 75% | B |
| 多様な担い手の育成 | 89% | B |
| 浜松版スマートシティの実現 | 75% | B |
| 地域特性を活かしたエネルギー自給率の向上 | - | - |
| UIターン・地元就職支援 | 89% | B |
| 女性の就労支援 | 100% | A |
| 外国人の就労支援 | 100% | A |
| 70歳現役都市・浜松の推進（高齢者の就労環境整備） | 98% | B |
| 就職を希望する人への就労支援 | 100% | A |
| 働き方改革等の推進 | 95% | B |



【主なKPIの状況】

| | | | | |
|-----|---|-----|-----|------|
| KPI | 〔施策：女性の就労支援〕 支援女性の就業率 (%) | 目標値 | 実績値 | 達成率 |
| | | 50 | 63 | 126% |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 女性就労支援事業としてセミナーやデジタル人材育成講座、就職フェアを開催した。これらの事業を通じて191人が就職活動に取り組み、120人の就職に結びつけることができた。支援女性に対する就業率は63%となり、目標を達成することができた。 ■ 今後も女性の就業率を高めるため、就労セミナーの回数を増やし参加者の増加を図るとともに「女性就労実態調査」により就業を希望する女性のニーズの把握に努めるほか、女性が働きやすい就労環境の整備に向け、企業に対する働き方改革やワークライフバランスをテーマとしたセミナーを開催する。 | | | |
| KPI | 〔施策：新規就業者などへの支援〕 認定新規就農経営体数 (件/累計) | 目標値 | 実績値 | 達成率 |
| | | 99 | 114 | 115% |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 2022年度からの新規就農者育成総合対策の拡充に伴い、新規就農者への資金面での支援や機械・施設等の購入補助により、就農を希望する方が増加傾向となった。また、農業振興課に就農相談員を配置し、就農相談体制を強化するとともに、補助金受給者に対してサポートチームによる圃場訪問指導を継続的に行うなど、就農準備段階から営農開始直後における支援体制の充実を図った。 ■ 今後は、新規就農された方々の成功事例を市ホームページに定期的に掲載するなど、情報発信を強化し、さらなる新規就農者の確保に努める。 | | | |
| KPI | 〔施策：ベンチャー支援〕 首都圏等から誘致したスタートアップ数 (件/年度) | 目標値 | 実績値 | 達成率 |
| | | 12 | 5 | 41% |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 首都圏におけるスタートアップコミュニティやイベントにおいて積極的にPRを行い、550件を超える企業面談につなげたが、地方進出に至っていないケースや本市進出が決まったが支店登記が4月以降にずれ込んだケースがある。また、浜松市スタートアップ戦略の最終年の令和6年度においては、これまでの課題を踏まえて、本市に本社を構えて本市での成長を見込むスタートアップを創出することに力点を移して事業を実施したため、目標の達成には至らなかった。 ■ これまでのスタートアップの集積を主軸とした事業から、第2期浜松市スタートアップ戦略で掲げた「浜松生まれ・浜松育ち・地域と共に育つ」の視点に即した事業に転換を図っていく。 | | | |



【数値目標・実績】

| 数値目標 | 基準値 (時点) | 2020/R2 実績 | 2021/R3 実績 | 2022/R4 実績 | 2023/R5 実績 | 2024/R6 目標値 | 2024/R6 実績 | 達成率 (2024比) |
|--|--------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------|---------------|----------------|
| ①合計特殊出生率 ※1 | 1.51 (2018/H30) | 1.41 | 1.37 | 1.35 | 1.27 | 1.84 | 1.22 ※2 | 66.3% |
| ②子どもを生き育てやすい環境が整っていると思う人の割合（市民アンケート調査） | 21.5% (2019/R1) | 24.3% | 22.1% | 21.4% | 19.6% | 50.0% | 22.4% | 44.8% |

※1 住民基本台帳による日本人の年齢別女性人口を用いて算出

※2 出生数は厚生労働省人口動態統計（概数）による。

【数値目標の達成状況】

- ①「合計特殊出生率」は、2024年の目標値1.84に対して1.22の結果となり、目標の達成には至っていない。また、基準値となる2018年の1.51から、年々下がってきている。
- ②「子どもを生き育てやすい環境が整っていると思う人の割合」は、2024年の目標値50%に対して22.4%の結果となり、目標の達成には至っていない。ただ、基準値となる2019年の21.5%より割合は向上している。

基本目標Ⅱ 子育て世代を全力で応援するまち (施策の評価)



【基本目標Ⅰの指標達成状況（2024年度）】 ★評価基準： 指標達成率100%…A、60%以上100%未満…B、60%未満…C

| | | |
|------|---|----------|
| 評価結果 | B | 指標達成率の平均 |
| | | 85% |

| | | | | |
|---|---|---|---|----|
| A | B | C | — | 合計 |
| 2 | 7 | 1 | 1 | 11 |

| 施策 | 平均指標達成率 | 評価 |
|--------------------|---------|----|
| 結婚・妊娠に対する前向きな機運の醸成 | 95% | B |
| 不妊に対する包括的な支援 | 100% | A |
| 母子の健康の保持・増進 | - | - |
| 保育施設・放課後児童会の拡充 | 50% | C |
| 地域の子育て力の向上 | 72% | B |
| 子育てに対する不安や負担の軽減 | 71% | B |

| 施策 | 平均指標達成率 | 評価 |
|---------------------|---------|----|
| 子どもの才能を伸ばす特別課外講座の充実 | 100% | A |
| 子どもの興味を引き出す機会の充実 | 94% | B |
| 学校・家庭・地域の連携による学校づくり | 96% | B |
| 郷土愛をはぐくむ教育の実践 | 98% | B |
| 子ども一人ひとりに応じた支援体制の整備 | 77% | B |



【主なKPIの状況】

| | | | | |
|-----|---|------|------|------|
| KPI | 〔施策：不妊に対する包括的な支援〕 不妊治療費（先進医療費）助成者における妊娠届出率（%） | 目標値 | 実績値 | 達成率 |
| | | 50.0 | 53.7 | 107% |

| | | | | |
|----|--|--|--|--|
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ■本制度について広く市民に利用していただく機会となるよう、市内産科医療機関への周知を行うとともに、市民向けの事業チラシを作成し周知啓発に努めた結果、475件の申請に対し助成を行ったことにより妊娠届出率の向上を図ることができた。 ■引き続き、関係機関や市民に対し、周知啓発を行い、本事業への理解を深めることで、不妊治療費助成件数及び妊娠届出率の向上を図る。 | | | |
|----|--|--|--|--|

| | | | | |
|-----|---|-----|-----|------|
| KPI | 〔施策：保育施設・放課後児童会の拡充〕 保育所など利用待機児童数（人） | 目標値 | 実績値 | 達成率 |
| | | 0 | 0 | 100% |

| | | | | |
|----|--|--|--|--|
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ■既存の認定こども園、保育所、幼稚園を対象とした施設整備や地域型保育事業の募集を行い、小規模保育事業を3施設、2026年4月開設の保育所の増改築1施設を採択した。2025年4月時点、204施設で定員17,544人を確保し、保育所等利用待機児童はゼロを維持している。 ■引き続き、施設整備等の募集を行い適正な定員を確保するとともに、宿舍借り上げ支援事業や修学資金貸付事業等の保育人材確保策を実施し、待機児童ゼロの維持を図る。 | | | |
|----|--|--|--|--|

| | | | | |
|-----|--|-----|-----|-----|
| KPI | 〔施策：保育施設・放課後児童会の拡充〕 放課後児童会利用待機児童数（人） | 目標値 | 実績値 | 達成率 |
| | | 0 | 189 | 0% |

| | | | | |
|----|--|--|--|--|
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ■核家族化や女性の就業率上昇などに伴い、放課後児童会への入会希望者は年々増加している。2024年度は、幼稚園の空き教室の活用や民間事業者への補助拡充により前年度から定員を545人増やしたが、定員拡大以上の利用申込があった。この結果、待機児童を前年度より13人削減することができたが待機児童の解消には至らなかった。 ■引き続き公共施設の空きスペースの活用を図るとともに、民間事業者への補助を拡充し、定員を拡大することで待機児童の解消を図る。 | | | |
|----|--|--|--|--|



【数値目標・実績】

| 数値目標 | | 基準値 (時点) | 2020/R2 実績 | 2021/R3 実績 | 2022/R4 実績 | 2023/R5 実績 | 2024/R6 目標値 | 2024/R6 実績 | 達成率 (2024比) |
|--------------------------------------|----|----------------------|---------------|-------------------|---------------|---------------|----------------|-------------------|----------------|
| ①住んでいる地域が住みやすいと思う人の割合 (市民アンケート調査) | | 58.7% (2019/R1) | 60.2% | 60.9% | 62.1% | 59.5% | 65.0% | 62.0% | 95.3% |
| ②健康寿命 ※1 | 男性 | 73.19歳 (2016/H28) | — | 73.74歳 (2019年) | — | — | 73.98歳 | 73.70歳 (2022年) | 99.6% |
| | 女性 | 76.19歳 (2016/H28) | — | 76.65歳 (2019年) | — | — | 76.94歳 | 75.95歳 (2022年) | 98.7% |

※1 厚生労働省研究班による政令指定都市・特別区の健康寿命データに基づく。(3年に1回公表)
2019年実績値は、男性73.74歳、女性76.65歳である。

【数値目標の達成状況】

- ①「住んでいる地域が住みやすいと思う人の割合」は、2024年の目標値65%に対して62%の結果となり、達成率は約95%となっている。目標達成には至っていないものの、基準値となる2019年の58.7%よりも向上している。また、過去5年間の実績に若干の上下はあるが、いずれも基準値を上回る結果となっている。
- ②「健康寿命」は、2024年の目標値となる男性73.98歳、女性76.94歳に対して、男性73.7歳、女性75.95歳の結果となり、男女ともにほぼ目標を達成している。ただ、男性に関しては、基準値となる2016年の73.19歳から向上しているが、前回結果の2019年の73.74歳と比べ、若干、健康寿命が短くなっている。また、女性に関しては、前回結果の2019年の76.65歳から若干健康寿命が縮まり、基準値となる2016年の76.19歳も下回る結果となっている。

基本目標Ⅲ 持続可能で創造性あふれるまち (施策の評価)



【基本目標Ⅰの指標達成状況（2024年度）】

★評価基準： 指標達成率100%…A、60%以上100%未満…B、60%未満…C

| | | |
|------|---|----------|
| 評価結果 | B | 指標達成率の平均 |
| | | 85% |

| | | | | |
|---|---|---|---|----|
| A | B | C | — | 合計 |
| 4 | 8 | 2 | 5 | 19 |

| 施策 | 平均指標達成率 | 評価 |
|--------------------------------|---------|----|
| 地域防災の推進 | 95% | B |
| 多様な文化や創造的な活動に触れる機会の創出 | 100% | A |
| ブランドの確立 | 54% | C |
| 国内外からの交流人口の拡大 | 65% | B |
| ふるさと納税の受入強化 | 50% | C |
| まちなかのにぎわい創出 | - | - |
| 中山間地域のにぎわい創出 | 99% | B |
| 市民協働のまちづくりの推進 | - | - |
| 多様性を生かした市民主体の地域社会の形成 | 77% | B |
| 医療・介護・予防・住まい・生活支援など切れ目ないサービス提供 | 100% | A |

| 施策 | 平均指標達成率 | 評価 |
|---------------------------|---------|----|
| 70歳現役都市・浜松の推進（高齢者の社会参加支援） | 97% | B |
| 市民一人ひとりの予防や健康づくりの推進 | 93% | B |
| 集約型の都市づくり | 98% | B |
| 拠点を結ぶ交通ネットワークの形成 | - | - |
| 持続可能な市民サービス提供体制の構築 | - | - |
| 広域連携の推進 | 100% | A |
| SDGs達成に向けたステークホルダーの活動推進 | 67% | B |
| デジタルファーストによる都市づくり | 100% | A |
| 温室効果ガス排出削減 | - | - |



【主なKPIの状況】

| | | | | |
|-----|---|-----|-----|------|
| KPI | 〔施策：中山間地域のにぎわい創出〕 市の制度を利用して中山間地域へ移住した人数（人/累計） | 目標値 | 実績値 | 達成率 |
| | | 276 | 334 | 121% |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 都市部と中山間地域の交流を促進する市内間交流事業を37回実施し、地域への関心を高めたほか、Welcome集落事業などの居住支援事業により、61人が地域の担い手として移住した。 ■ 今後も住民同士の交流機会を創出するとともに、中山間地域への関心を高め、中山間地域への移住を促進する。 | | | |
| KPI | 〔施策：多様な文化や創造的な活動に触れる機会の創出〕 音楽をはじめとする市の文化事業に対する満足度（%） | 目標値 | 実績値 | 達成率 |
| | | 43 | 45 | 104% |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 第12回浜松国際ピアノコンクールを6年振りに開催し「音楽の都・浜松」を世界に向けて発信するとともに、世界の音楽文化の発展に貢献した。まちなかプロムナードコンサート40周年記念事業や、中高生を対象とした軽音楽祭を開催したほか、市内小学校でランチタイムコンサートを開催し、多くの市民が音楽に触れ、楽しむ機会を提供し、音楽のあふれるまちづくりを推進し、文化事業に対する満足度を高めることができた。 ■ 今後は、アウトリーチ事業を拡充し、より多くの市民が音楽に触れる機会を提供し、音楽のあふれるまちづくりを推進する。 | | | |
| KPI | 〔施策：国内外からの交流人口の拡大〕 外国人延べ宿泊者数（千人泊/年度） | 目標値 | 実績値 | 達成率 |
| | | 410 | 199 | 48% |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 中国における日本旅行ブームの沈静化やコロナ禍後のビザ免除措置の再開（2024（令和5）年11月から）の遅れなどにより、中国からの宿泊者が伸びなかったことが原因である。 ■ 今後は、海外現地連絡員による旅行会社へのセールスなどにより、中国からの宿泊者増加を図ることに加え、ゴールデンルートの需要が高い東南アジアの団体旅行者をターゲットとすることやデジタルマーケティングを活用して欧米豪の個人旅行者の獲得を目指す。 | | | |